

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		株ぼーと 放課後等デイサービス ひかり三春教室			公表日	R8年 3月 9日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	・活動時には、テーブルを移動するなどして、スペースの確保をしている。	・スペースの有効活用
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		・利用児童が多い曜日には、全員出勤をするようにしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		・ホワイトボードなどを利用し、情報を分かりやすく掲示している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		・朝、夕は室内の消毒を行い、生活空間の環境の良化に努めている。	・利用児童が多い時には、狭さを感じる。 ・支援室の物の配置の再検討
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		6		・収納スペースが少なく、大型遊具・教材の保管に部屋を使ってしまっている。今後は、スペースの有効活用を考えていく。
	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		・ケース会議などに参加に、全員が参画している。	

業務改善	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・保護者様の声を聴かせていただき、ニーズに応えられるように努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・ミーティングなどの時間に、職員間での話し合いを設けながら改善につなげています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		・ガイドラインに沿った保護者向け評価の結果をもとに問題点・改善点を明確にし、それらについて検討し、支援力の向上・業務改善につなげていきたいと思えます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		・その役割によって、研修の受講をしています。また、復命研修にて内容の共有を図っています。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		・昨年3月よりHPにて公表	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		・面談などから、本人・保護者のニーズを確認している。	・子供へのアセスメントは難しい所もある。 ・アセスメントを定期的に行うことでニーズの表出につなげていきたい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		・ケース会議を行い、全員で話し合い作成している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		・常に個別支援計画に沿った支援が行えるよう、すぐに5領域の内容を確認出来るようにしてある。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		・アセスメントシートや保護者との面談から確認すると共に、日々の個別活動記録・連絡帳などから確認している。	

## 適切な支援の提供

16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		・個別支援計画別表にて「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」の具体的設定をしている。	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		・月担当者が立案し、職員全員で検討し決定している。	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		・毎日、違ったプログラムを提供するとともに、曜日の重なりも避け、利用時に様々な活動に参加できるように配慮している。	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		・健康・生活で基本的な生活スキルの獲得を目的に、トイレトレーニング・整容などに取り組んでいる。	・基本的に集団活動がメインの計画になってしまうので、個別活動の内容も取り入れていきたいと思います。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		・朝のミーティングや帰りの申し送りなどで、職員のその日の役割分担や活動内容を確認・反省を行っている。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6			
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		・日々、個別活動日誌の記入を行い、個別支援計画書との擦り合わせをすることで検証・改善につなげている。	
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		・個別支援計画書作成後の3か月・6か月毎にケース会議を行い、見直し・継続の判断を行っている。	

	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちで、その日の活動内容を決めて活動を行う日を設けている。</li> <li>・お話し会でボランティアの方に来ていただいている。(月1回程度)</li> </ul>	・地域交流という点に難しさがある。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・意思決定の難しいお子さんには、選択肢を与えながら、自分で決めることを練習している。</li> <li>・意思決定支援研修への参加</li> </ul>	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・参画している</li> </ul>	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携要請があれば、参加対応している。</li> </ul>	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎時に担任教諭から情報をいただいている。</li> </ul>	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議などに参加、以前の就学前の情報を聞かせていただいている。</li> <li>・保護者より、以前の個別支援計画書やアセスメントシートなど見せてもらい情報を得ている。</li> </ul>	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス事業所からの情報提供の依頼を受けたことが無いため、行っていないが依頼があれば積極的に協力していきます。</li> </ul>
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて研修に参加している。</li> </ul>	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のお子さんとの交流は、時間・場所等の物理的環境から難しく行えておりません。</li> </ul>

	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	6		・管理者が参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		・連絡帳などで日々の様子を共有したり、お迎え・送迎時に様子を話したりしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		・研修情報など入った時には、内容をコピーして全家庭に配布して、参加を促している。	・内容が分かるように、説明をしながら個別に配布するなどの対応をしていきたいと思えます。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		・契約時に、説明させていただいている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		・サービス等利用計画や面談から確認している。	・子供からの確認は難しい
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		・6か月ごとの見直しを行い、その都度説明を行い、同意をいただいている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		・相談には、面談の開催や連絡帳などで対応している。 ・面談は保護者の任意ではあるが、開催している	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		6		・現在、そういった場の提供は行っておりません。今後、情報交換の場を検討していきたいと思えます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		・苦情窓口を設置、担当職員を配置している。	

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		・ひかり通信を発行している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		・漏洩が無いように、しっかり対応している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		・一日の予定など、分かりやすくボードで示したり、来所時の流れなど表示している。 ・分かりやすい言葉での説明をしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6	・お話し会でボランティアの方に来ていただいている。(月1回程度)	・地域住民の方に参加していただける行事の立案が難しい。
非常時等の	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		・避難訓練に不審者対応を取り入れている。	・マニュアルは策定しているが、契約時の説明だけに留まってしまっている。玄関に掲示するなどの周知法を検討する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		・避難訓練を年に2回実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		・事前調査票から確認し、変更や発作が起きた場合には、電話・連絡帳にて報告をいただいている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		・医師からの指示書の提供は受けていないが、保護者からの情報を共有しながら、対応にあたっている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		6	・避難訓練の実施 ・必要と思われる研修への参加	

対応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		6	・重要事項説明書に記載	・重要事項説明書に記載してあるが、周知は出来ていない。掲示するなどして周知に努めていきたいと思います。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		・発生時に、報告書の記入を行い、防止策の検討もおこなう。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		・研修に参加、復命研修も行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6			・身体拘束の必要な児童の該当がない。